

第61回

社会を明るくする運動 作文コンテスト入賞作文紹介

第61回“社会を明るくする運動”作文コンテストにおいて朝日中学校2年、水谷貴一くんが三重県推進委員会委員長（三重県知事）賞を受賞された、入賞作文を紹介します。

この作文を通して、改めて更生保護について、地域のチカラについて考えてみたいのです。

「信じる心で防げる非行と犯罪」

僕は「社会を明るくする運動」というタイトルの中に四種類の人間が浮かびました。

まず犯罪を犯してしまった人と犯罪者の立ち直りをサポートしていく人と被害にあってしまった人と犯罪などがない地域づくりを考える人々です。タイトルは同じですが、立場によって意見や考え方が違って来る様な気がしたので、その四種類の人間に自分になったとして作文を書いてみようと思いました。

僕が住んでいる朝日町は犯罪も少なく平和で穏やかだと思います。卒業した朝日小学校も現在通っている朝日中学校も非行には無縁で校内が荒れている様子もないですが、他校の友人は、荒れている学校の様子を面白おかしく話してくれます。少し大げさに話しているだろうと思いつつ、軽く聞き流していましたが、もしも自分がその話の被害者の立場になって考えるとつらく、怖いと感じました。

しかし、反対に加害者の人にも、事情があり気持ちが全く分からない事は無いです。そう考えると、犯罪を減らす事はすごく難しいと思いました。

犯罪の中でも窃盗や万引きを面白半分ですってしまった人や、家庭の事情で働く事が出来ず欲しい物が買えない人、イジメなどで強要されてなど、困って盗んでしまう場合など、理由は様々ですが、地域の人として何が出来るのか？考えてみました。

一つ目はスポーツや趣味など気軽に参加出来るサークルなどを作って、何かに熱中出来る環境があれば、暇も少なくなり非行や犯罪も少なくなると思いました。二つ目は、子供でも出来る草抜きなどの仕事でバイトが出来る環境を地域で協力して作ってあげるのも良いと思いました。

今現在犯罪を犯してしまった人の立ち直りをサポートしているのは、家族や友人や先生など身近な人の温かさです。これも大切ですが社会の受け入れも重要だと思います。例えば事情も知らずに犯罪者として、社会が受け入れず、働かせてもらえなかったり、働き始めても、社員などに避けられてしまうと、やり直したい気持ちがあっても挫折感でいっぱいになると思います。だから、やり直すチャンスはあげても良いと思います。

それが無理なら、過去の事を知られていない所で、新生活をさせてあげるのも良いと思います。